

# 堅上小学校がめざす教育

## I 教育目標

恵まれた自然環境を生かし、連続性を重視した一貫教育により、「生きる力」を育てる。

## II めざす子ども像

- すすんで考える子(知)  
意欲をもって学習に取り組む子ども  
基礎基本を身につけ、自分の思いを表現する子ども
- 思いやりのある子(徳)  
お互いを認め合い、協力する子ども  
礼儀正しい子ども
- たくましい子(体)  
すすんで運動し、健康を大切にする子ども  
粘り強くやりとげる子ども

## III 学校経営方針

社会の在り方が変化する中、予測困難な時代を生き抜く力を全ての子どもたちにつけていくことが、学校としての責務である。「少人数指導のきめ細かな指導による確かな学力の定着」「豊かな自然を活用した豊かな心の育成」「1年生から学ぶ『えいご』」など、保護者の期待が大きく、継承していくべき学習活動は、今後も本校の教育の柱となる。

昨年度から研究をすすめてきた、これまでの実践とICTの最適な組み合わせた質の高い授業を行うことで、「個に応じた指導」を充実させ、基礎的、基本的な知識・技術を確実に習得することだけでなく「主体的・対話的な深い学び」を実現させていかなければならない。また、物事に対して自分の考えを深めたり整理したりする「論理的思考力」も育てていきたい。そのために、全教職員で積極的にICT機器等を活用した指導の充実にも努めていきたい。

きめ細かな授業、質の高い実践を通して、成長した子どもの姿を、保護者や地域に発信することで信頼関係を築き、魅力ある特色をもった学校づくり、地域に開かれた学校づくりに努めたい。

『堅上小スタンダード』を教職員で共通理解し、教職員自身が熱意をもって指導することで子どもたちが持てる力を十分に発揮することができ、また能力を伸ばすことができると考える。その結果、本校の求める『生きる力』=『生きて働く力』と『生涯にわたり学び続ける力』の育成につながるものと考えている。

## IV 本年度の重点目標

- ◎幼・小・中の校種間連携のより一層の充実に努め、12年間を見通した教育の推進を図る。  
さらに、小・中学校に関しては、小中一貫校のあり方をさらに研究、検討するため、合同研修会の充実など、小中教職員の共通理解、共通認識を深める。

### 1 確かな学力の育成

- (1) 体験的な学習や課題解決的な学習、自主学習を通して、主体的に学習する意欲・態度を育成する。

- (2) 自分の考えを表現したり、まとめたりする活動を通して、総合的な「言語能力(書く、読む、話す、聞く)」と「論理的思考力」の育成を図る。
- (3) 授業力向上に向けた研究を進め、学習規律を含めた「堅上小スタンダード」を発展、充実させる。
- (4) 一人1台のタブレット等、ICT機器を活用した授業を日常的に展開する。
- (5) 朝学習の充実、家庭学習習慣の確立によって、基礎基本の定着を図る。

## 2 健康な心身の育成

- (1) ものごとを多面的・多角的に考え、よりよく生きるための基礎となる道徳性を養う。
- (2) 人権尊重の精神に則り、差別やいじめを許さない「認め合い、支え合い、高め合う」学級や学校づくりに努める。
- (3) 健康安全教育の充実を図り、心身の健康を培う基礎となる環境への意識を高める。

## 3 安心・安全な学校づくり

- (1) 一人ひとりの子どもの実態と課題把握に努め、教職員全員で情報の共有を行う。
- (2) 個性を活かし、心に寄り添う生徒指導の充実を努める。
- (3) 支援教育の理解を深め、一層の充実と効果的な実践に努める。
- (4) 災害や感染症の発生などの緊急事態を想定し、施設の整備に努める。また、発生時においては、子どもの心のケアを最優先に教職員全員で対応に努める。

## 4 これからの堅上小に向けた取り組み

- (1) 学校だよりや学級通信の発行、ホームページの充実、および「広報かしわら」への掲載など、より多くの情報発信を行い、保護者・地域の理解と信頼を得て、小規模特認制度の次のステップを図る。
- (2) 学校が地域の核となり、学校、保護者、地域が連携することにより、堅上地域の活性化を図る。そのために、コミュニティー・スクール設置につながるように継続的に検討を進める。